

令和3年度
山梨県介護ロボット導入費補助金
導入効果報告書取りまとめ

山梨県介護ロボット導入費補助金について

- 山梨県では、平成27年度から介護ロボット導入費補助金を実施しています。
- 令和3年度までに40事業所に対して、計255台の介護ロボットの導入を支援しました。

山梨県介護ロボット導入費補助金の概要	
事業の目的	介護従事者の精神的・身体的負担の軽減、生産性の向上等を推進するため、県内の介護事業所に対して、介護ロボットの導入費等を支援する。
補助対象機器 及び 補助上限額	<ul style="list-style-type: none"> ○移乗支援（装着型・非装着型）／入浴支援 … 100万円 ○その他（見守り機器等） … 30万円 ○見守りセンサーの導入に伴う通信環境整備 … 750万円 ※補助率 1 / 2、一定の要件を満たせば 3 / 4

R3年度に
拡充。

- 介護ロボット導入費補助金により導入された機器の例

機器種別	機器名
移乗支援・ 入浴介助	<ul style="list-style-type: none"> ・HAL（移乗介助・装着型） ・マッスルスーツEdge、マッスルスーツEVERY（移乗介助・装着型） ・リヨーネPlus（移乗介助・非装着型） ・ロボヘルパー-SASUKE（移乗介助・非装着型） ・HugT1（移乗介助・非装着型） ・Wellsリフトキャリー（入浴支援）
見守り機器	<ul style="list-style-type: none"> ・アムス ・見守りケアシステムM2 ・眠りスキャン ・ネオスケア

山梨県介護ロボット導入費補助金について（導入効果報告書）

- 介護ロボット導入費補助金により介護ロボットを導入した事業所に対しては、導入後3年間、介護ロボットの導入効果について報告を求めています。

【報告いただく項目】

①業務時間の短縮、②直接・間接負担の軽減、③職員の満足度、④利用者の満足度

導入効果報告書を踏まえた
介護ロボット導入のポイント

介護ロボットは、適切に活用することで、介護職員の方々の精神的・肉体的な負担軽減につながります。

- ✓ ただし、介護ロボットを実際に使ってみると、ちょっとした使い勝手の悪さや、工夫が必要な点が見えてくる場合があります。介護ロボットの導入後は、「このように使ったらもっと活用できそう」、「このような状況には気を付けよう」など、職員同士で気付いたことを共有していくことも必要です。導入したら終わりではなく、導入後の取組みも見据えてください。
 - 例えば、介護ロボットの活用を推進するリーダーを置くことを検討してください。（一人に負担が偏らないように複数名置くことも検討してください。）リーダーは、職員が機器を使用する上で感じている不安や工夫している点をくみ上げて、改善策等を検討します。（職員全員で検討しても良いです。）職員全員で共有すべきことはリーダーを通じて共有します。
 - 導入初期のうち、機器を使った職員が感想を記録し、職員全員に共有することを検討してください。少しでも早く機器を活用するコツをつかむとともに、取扱説明書から把握できなかった注意点や上手に使うポイントを職員全員で共有します。
- ✓ また、介護ロボットの導入前に、①課題は何か？ ②課題に対してどのような機器を導入して、どのように活用するのが効果的か？を十分検討してください。
 - 導入する機器を検討するにあたっては、介護ロボットの導入事例集（「介護ロボット導入活用事例集2020」厚生労働省 等）を参考としたり、介護ロボットメーカーへ問合せなどしてください。（試用貸し出しを行うメーカーもあります。）

次のページから、既に介護ロボットを導入し、活用している事業者の皆さんの声をまとめているので、介護ロボットを導入する際の検討材料としてご活用ください。

介護ロボットの導入効果について 【①業務時間の短縮】

介護ロボットを導入した事業所からの意見（自由記述）

	移乗介助・入浴支援機器	見守り機器
◎効果が見られた点	<ul style="list-style-type: none"> 介護負担が減少したことで離床機会が増加した。（移乗介助） リフトを使用し、一人で介助ができるようになった事で、業務が効率的にできるようになった（移乗介助） 	<ul style="list-style-type: none"> 定期的な訪室回数を減らすことができた。 事務所内やその場を離れても携帯で確認がとれ、画面を通し一目でわかるため、時間短縮が可能となり、他の業務に専念できる。
■工夫が必要な点	<ul style="list-style-type: none"> リフトの設置・片付けなど準備する時に時間を要する。 	<ul style="list-style-type: none"> 導入期間が短いため、大幅な改善は現在、はっきりと確認できてはいない。

上記まとめ

【移乗介助・入浴支援機器】

- 移乗介助機器は、介助者の業務負担を軽減するとともに、対応者を減少させることができるため、シフト上、職員数が少ない場面でも対応が可能にすることができる。
- 一方、ロボットを用意する時間が必要となるため、準備工程を含めた業務効率化・時間短縮を行うことが必要。

【見守り機器】

- 効率的な巡回ができることに加え、入居者のケアの予測ができることによる業務効率化が図ることができる。
- 一方、使用方法を十分に習得する必要があるとともに、データの蓄積に時間を要するケースもある。

【共通】

- 業務の効率化を図ることができるが、十分に使いこなすにはそれなりの時間がかかることがある
- また、導入による新たな課題も発生することから、業務全体をとおして効率化を図る必要がある。

介護ロボットの導入効果について 【②直接・間接負担の軽減】

介護ロボットを導入した事業所からの意見（自由記述）

	移乗介助・入浴支援機器	見守り機器
◎効果が見られた点	<ul style="list-style-type: none"> 利用者はどの介護者も同一の方法で行うことで恐怖心や過度の緊張など心身の負担が軽減した。（移乗介助） 介護者は、持ち上げる動作が減少したことで、肩や腰などの直接的な身体への負担が軽減した。（移乗介助） 	<ul style="list-style-type: none"> 状態の見える化によって、職員の精神的負担が軽減された。 利用者の睡眠、呼吸、心拍、体動データを分析することで夜間介護職員の見守り業務の効率化が図られ、また根拠立てたケアの提供が可能になり、業務負担軽減になっている。
■工夫が必要な点	<ul style="list-style-type: none"> 一部負担が軽減されていない（入浴支援） 	———

上記まとめ

【移乗介助・入浴支援機器】

- 職員の身体的負担の軽減のみならず、統一された手順で行うことにより、緊張等の心身の負担の減少が期待される。
- 一方、負担の軽減が発揮されない職員もあり、操作方法等の改善が必要とされる。

【見守り機器】

- 利用者の状況がリモートでもわかることにより、職員の精神的負担が軽減されている。また、利用者のデータから、行動について予測を立てることができる。

【共通】

- 職員が同一のロボットを活用することにより、業務の均一化や新たな対応方法の検討ができる。

介護ロボットの導入効果について 【③職員の満足度】

介護ロボットを導入した事業所からの意見（自由記述）

	移乗介助・入浴支援機器	見守り機器
◎効果が見られた点	<ul style="list-style-type: none"> どの職員でも積極的に介助に参加することができるようになった結果、一定の職員に負荷がかかることがなくなり、満足度が向上した。 腰痛が軽減され、業務の負担感、疲労感が減少した。 	<ul style="list-style-type: none"> これまでわからなかった睡眠時間や質がわかるようになり、支援方法を検討することができた。 状態の可視化は、これまでの支援に新たな支援を与えてくれた。 体調が変化しやすい看取り期の利用者の身体状況がモニタリング可能になったことで、より一層寄り添うケアができた。
■工夫が必要な点	———	<ul style="list-style-type: none"> 概ね満足だが、データのみには振り回されることなく、現実の状態をしっかりと把握することも重要

上記まとめ

【移乗介助・入浴支援機器】

- ロボット導入により、業務の統一化が図られ、業務分散が可能になった。
- 身体的負担感については、直接的な効果がみられ、満足度の向上がみられた。

【見守り機器】

- 見える化により、新たな対応方法の検討ができるなど、職員自身による改善活動がみられた。

【共通】

- 業務改善や負担が減ることにより、満足度の改善がみられる。特に身体的負担は直接的な効果がみられる。
- 加えて、新たな業務改善のきっかけになることが来たできる。

介護ロボットの導入効果について 【④利用者の満足度】

介護ロボットを導入した事業所からの意見（自由記述）

	移乗介助・入浴支援機器	見守り機器
◎効果が見られた点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 楽に立ち上がりができるようになったとの声が聞かれた。 ・ 安全に立位・移乗動作が可能になり、離臥床や排せつなど利用者に合わせた日常生活を送ることができるようになったことで満足度が向上した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 利用者の眠りの妨げにならないよう、訪室及びおむつ交換を実施できることになり、質の高い睡眠をとることができるようになった。 ・ 度重なる職員の安否確認で途中起こしてしまい、そこからまた寝付くことが難しく起きてしまい苦情になることが度々あったが、今では、安否確認が最小限に減り、安定した睡眠確保ができていと言われた。
■工夫が必要な点	———	<ul style="list-style-type: none"> ・ 導入した利用者は介護度5の方が多く、使用している認識をお持ちいただくのは難しく、満足度の確認が難しい。

上記まとめ

【移乗介助・入浴支援機器】

- ・ ロボットの使用により、利用者自身の動きも楽になったことに加え、安全性が向上し満足度が向上している。

【見守り機器】

- ・ 安否確認を最小限にすることにより、利用者の睡眠の質の向上が図られ、満足度が向上している。

【共通】

- ・ 職員の業務効率化や身体的な軽減のみならず、利用者にも安心感や動きを楽にすることが可能となり、満足度の向上を図ることができる。